

「2学期制に関するQ & A」

Q1 2学期制のメリットは何ですか？

A1 新学習指導要領の全面実施に伴い、学習内容・時数ともに増加しています。また、自ら課題を見つけ、仲間や教師と考えをぶつけ合い深めながら、主体的に学習を進め解決していく「学び」が求められています。

メリット① 1つの学期が長いので、学習にじっくり取り組ませることができます。また、長期休業期間を学習の過程と位置づけ、主体的な学びを進める期間としての活用も可能となり、この間の頑張りも通信表に反映することもできます。子どもたちの意欲の継続と個別支援の充実が可能となり、新しく求められている学力の向上に向けた取組を展開できます。



メリット② 1つの学期が長いので、学校行事を効果的に配置することができます。また、感染症の流行や自然災害などの休業措置にも柔軟に対応しやすくなります。

メリット③ 7月と12月にゆとりが生まれ、子どもたちも教師も落ち着いて学習に専念できます。そのことで、児童・生徒一人一人に応じた指導が可能となります。また、一人一人の生活の悩みや課題などに寄り添う時間も確保しやすくなります。



中学校では12月の進路指導に一層力を注ぐことが可能となります。

Q2 2学期制はどの程度実施されていますか？

A2 宮城県内では、県立中学校の他、仙台市、白石市、栗原市、富谷市、大崎市、七ヶ宿町、川崎町、七ヶ浜町、涌谷町、大衡村の各小中学校で実施され、現在塩竈市等、複数の市町で移行が検討されています。

Q3 2学期制になるとテストの範囲が広がってたいへんではないでしょうか？

A3 2学期制では、学期のまとめのテストの他に、単元（学習のまとめ）が終了した時点での習熟度の確認のための小テストがとても大切になります。「テストのために勉強する」という考えから、「普段の学習を大切に、予習や復習の習慣を大切に」という意識を育てていくことが必要です。各学校で2学期制に見合う評価の在り方を工夫していきます。



Q4 学校生活は2学期制でどう変わるのですか？

A4 これまでの学校生活と大きく変わるのは、短いですが「秋休み」があることです。夏休みと冬休みは、これまで同様一つの節目となりますが、10月に1年間の大きな節目ができることになります。

また、これまで夏休み前、冬休み前にもらっていた通信表を前期の終わり、10月にもらうことになります。初めは慣れないかもしれませんが、評価は細やかに配慮し、困ったり、戸惑ったりすることがないようにします。

また、1学期前半の学習や学校での様子については、7月あたりに面談等の機会を設けてお知らせするなど、各学校で工夫していきます。児童・生徒の学習の様子をその都度評価し、その結果を児童・生徒にしっかりと伝え、振り返りを行うことが、「分かる授業」「個々の児童・生徒の学力の向上」に結び付くと考えています。

他には、年間の行事の設定について、学校ごとに違いがあると思われませんが、各学校で十分検討して決定していくことになります。



Q5 高校入試の調査書への影響はありませんか？

A5 一般的に高校入試に関わる事務（調査書の作成等）は、例年11月から12月初旬の三者面談（進路相談）後、11月下旬から12月中旬にかけて始まります。これは、学年末評価と分けて評価・作成しているため、2学期制・3学期制の違いによる影響はありません。

2学期制に移行すると、進路相談の重要な時期にこれまで以上に生徒や保護者との綿密な進路相談が可能になります。



Q6 中総体（中体連）への行事の影響はありませんか？

A6 仙台市をはじめ、近隣の市町でもすでに2学期制に移行しており、県内でも今後広く移行していくことが予想されます。仙台市では、全国的にも早い時期に2学期制に移行していますが、中総体（中体連）等は問題なく実施されてきました。中学校の対外行事関係については、さらに同一歩調で進めることが容易になると考えます。

